



プロジェクトX 「千年の秘技・たたら製鉄 復活への炎」

『昨日のNHK、プロジェクトX 感動したなあ！』そんな電話がありました。3月29日（火）午後9時15分からの放送でした。友人や従業員に『たたら製鉄の再現』の放送があるので、ぜひ見て欲しいと伝えた反応です。『お年寄りの村下（むらげ＝安部由蔵さんのこと）が和鉄づくりに頑張っている姿を見て涙が出た。』『鉄は奥の深いものなんですね』カミソリの刃の素材に必要とされる鋼の純度に興味を持った友人もいました。

私は現在の村下、木原明さんの情熱と信念、努力に敬服しました。今年1月28～29日に『たたら製鉄』を見学させて頂いた時、ちょうどNHKの取材班が来ていて、4月頃には放映されると聞いていました。3月20日に『日刀保たたら』のある島根県仁多郡横田町の商工会から、この放送の案内はがきを頂き楽しみにしていました。

放映された映像の中に、たたら再現の苦勞がにじみ出ていました。途中で炉の炎が途絶えてしまう、何回かの失敗の後、総風量が多すぎるのではないかと疑問を持った木原明さんが送風用のふいごを回すモーターの回転数を半分に下げる場面がありました。『逆転の発想で、このことにより成功したのです。』とアナウンサーが伝えていました。この『ふいご』は再現のために新たに作られたものだったのです。

見学の際、ケラ出しが終わり一段落したとき、了解を得て、『たたら場』から少し離れた小屋にある、この『ふいご』を見せていただきました。モーターと歯車とクランク軸を使って、左右二基ずつ合計四基の吹差ふいごを動かしていました。



天秤ふいご

今回、放映された『日刀保たたら』では吹差ふいごが使われていましたが、江戸時代には天秤ふいごが使われていました。天秤ふいごは江戸時代末期（1691年）に出雲地方で発明されました。このふいごでは、従来の踏みふいごとは異なり、左右各1～2名で作業が出来るようになりました。ちなみに、踏みふいごでは左右3～4人が同時に作業しました。

この発明で、大幅な省力化が図れ、又、送風量が大量になり安定したことにより、鉄の生産量は飛躍的に向上しました。発明された、出雲を含む中国地方のたたら場で特徴的に発達しました。

また、『たたら』という言葉は踏みふいごを意味した言葉が製鉄全体を表す言葉になって行きました。



国選定保存技術保持者
日刀保たたら村下 木原 明

写真協力 （財）日本美術刀剣保存協会

『ふいごの話』は以下のホームページに詳しく書いています。ご参考に。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/huigo/index.htm>

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
ryou@memenet.or.jp

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！